

# 日韓の放送言語テキストにおける連体修飾名詞句の違い

## —機能的側面に注目して—

尹 盛熙(関西学院大学)

### 1. はじめに

本発表の目的は、修飾節と被修飾名詞で構成される連体修飾の名詞句構造がテキストの中で果たす機能について検討することである。特に日本語と韓国語の放送言語テキストを観察し、連体修飾の名詞句が他の文の成分としてではなく単独で用いられるという用例を分析し、「連体修飾」という文法的な仕組みが当該ジャンルを特徴づける機能を果たしていることを主張する。

### 2. 問題の背景

連体修飾の名詞句構造(以下「連体名詞句」とは、「[春に吹く]風」というふうに連体修飾節とその修飾を受ける主要部の名詞(句)からなる構造をいう。意味内容的には「春に風が吹く」などの述語文に対応するが、連体名詞句は「春に吹く風をすべて春風とは言わない」のように、他の文に埋め込まれる形でより複雑な事象を表現することができる。主語や目的語など、通常の名詞位置に、そして「Aは/がBだ」といった名詞述語文の述語位置に立つのが典型的なふるまいである。

一方で文の一部として組み込まれず、単独で使用される例が見られる。例えばテレビニュースなどで見られる「[ホワイトハウス前で叫ぶ]人々」などのようなものである。このような例は、前後に「こちらは～です」などをつけても文脈的に違和感がない場合もあり、いわゆる「名詞止め」「体言止め」のような名詞述語文のバリエーションのようにも見える。しかし中には「[警備のバイクに囲まれた]一台の車」などのように、最後に「だ/である」をつけて名詞述語文のようにすると違和感が出てしまい、名詞述語文から何かが省略されているとも言い難いものもある。つまり名詞述語文の一部として何かを「述べる」という機能をするものではなく、基本的には一語文に近いものと言えそうだが、統語的地位の曖昧さから分析の際も周辺的なものとして扱われてきた<sup>1</sup>。

日本語と多くの文法的特徴を共有する韓国語でも連体修飾の仕組みがあり、「[春に吹く]風」などは韓国語でも同じ構造を作ることができる上、その統語上の振る舞いも概ね一致する。そして韓国語でも連体名詞句の単独使用が見られるが、例えばテレビのバラエティ番組では「[좀처럼 쉽지 않은] 기상 ([なかなか難しい] 起床)」などのテロップが見られる。このような例は、日本語で同じ構造にするとどこことなくぎこちない場合があり、実際にこの手のテロップに対してつけられる日本語の翻訳字幕は、「なかなか起きられない」のような動詞述語文になるなど、異なる構造をとることが多い。

これと関連しては、「きれいな花!」という文型における日韓の違いもある。連体修飾に形容詞が用いられている日本語の場合、きれいな花を見つけて嘆声を挙げる場面の発話として「[きれいな]花!」というのは自然なものだが、韓国語の場合、同様の状況でこの構造は不自然で、「花が[きれいな]!」に該当する述語文を用いるというずれが指摘されている(生越 2002)。即ち本発表の分析対象とは反対の傾向を示すわけで、両言語で同じ構造を使えない、あるいは好まない傾向が存在することが分かる。

このことから、以下では単独で用いられた連体名詞句の文レベルにおける文法的・統語的地位だけでなく、談話レベルでの機能を観察し、連体修飾という類似した道具が両言語でどのように用いられているのかを考察したい。

### 3. 日本語のニュースにおける連体名詞句

まず日本語では、テレビニュース<sup>2</sup>に見られる例を紹介していく。一つ目は、ニュース項目の冒頭でまたは話題転換の直後などに用いられる例である。これは新しい内容において主題を提示する機能を果たすというもので、以下の(1)ではま

<sup>1</sup> 例えば新聞記事に見られる名詞型述語文を分析した安達(2017)は「続く文の主題的な要素として場所や人物を提示する非述語的な用法」としている。

<sup>2</sup> 使用したのは、2017年5月8日～12日の5日分のNHK「ニュースウォッチ9」における音声発話である。

ず「こちらです」という前置きから入り、「韓国大統領選挙」という主要部名詞句を使って主題を具体化している。これは一般的な会話で「週末の予定は？」など、名詞句だけで会話を開始する場合の延長線上にあるものであるといえる。

- (1) さて続いてはこちらです **【投票があずに迫った】韓国大統領選挙**

また、連体名詞句が後続文の一部として先に提示される場合がある。

- (2) **【朴前大統領が罷免されたことを受けて行われます】今回の選挙** 有力なのはこちらの3人です

上記の例は連体名詞句と後続の名詞述語文に分かれているが、太字で示した連体名詞句は内容的には後続文に「何において」に当たる情報を先提示していることになる。逆の言い方をすれば、「～今回の選挙で有力なのは～」などのように一つにまとめられる文をあえて分けているともいえる。(2)では、連体名詞句を用いることによって主要部の名詞句が談話上の区切りとなり、適度なリズム感をもたらす効果があるものと考えられる。

- (3) a. こちら 車のボンネットをご覧ください 積もっているのは**黄砂**です  
b. (中略) **【おととい今シーズン初めて観測された】黄砂**  
c. 今日は西日本の他…などでも**黄砂**が観測されていて松山市では視界が7キロ程度にまで下がりました  
d. この**【春になると飛んでくる】黄砂**  
e. 専門家は**黄砂**を吸い込んだ場合 喘息などの…患者は…特に注意が必要だといいます

(3)は季節外れの暑さを伝えるニュースの一部で、黄砂の到来について紹介しているが、(3b)と(3d)の2か所に連体名詞句が配置されている。(1)(2)との違いは、連体名詞句は主題提示の位置ではなく、ニュースがある程度進んでから用いられているという点である。まず(3)のメインテーマである「黄砂」は(3a)ですでに主題として提示されているため、続く文で「黄砂」を繰り返す必然性はない。通常の会話ですでに自明な主題は繰り返すを避けるというのが一般的であることを考えると、不要に思われるものである。それに、内容的な新情報は連体修飾節にあるので、「(黄砂が)今シーズン初めて観測されました」などのように対応する動詞述語文を用いてもよさそうなところである。あえて連体修飾節の被修飾名詞として繰り返されている「黄砂」は、「は」などの主題マーカーで提示するという通常文の形を避けて目新しさを出しつつ、全体の流れの中で視聴者の集中を手助けする装置として機能しているものと考えられる。

またこの例は、主に一方的に情報を流すナレーション部分で見られ、スタジオでアナウンサー同士が会話形式で進める場合や、スタジオと現地を結んで質疑応答のように進められる場合は、ある程度長さがある発話であっても出てこない。音声で一方的に伝えられることから、繰り返しによる注意喚起は有効な手段になるものと考えられる。

#### 4. 韓国語のバラエティ番組における連体名詞句

次は、韓国のバラエティ番組<sup>3</sup>のテロップに見られる連体名詞句の例を紹介する。「テロップ」とはテレビ放送において音声発話とは別に、「番組製作段階で画面に付け加えられた静止画像としての文字」(塩田 2005)のことである。「字幕」や「キャプション」などと呼ばれることもあり、よく知られているのは外国語の日本語訳をつける翻訳字幕である。テロップ化の対象になるのは、まず画面上の人物の発話が典型的なものであるが、発話の形で発せられていない情報、つまり言語化されていない出演者の心境や状況に対する説明なども、テロップになることがある。便宜上、それぞれを発話再現型と解説型に分けると、日本語は発話再現型のテロップが、韓国語は発話再現型より解説型テロップの方が多いたことが知られている(이충규 2015)。そして連体名詞句の用例は、この解説型の方で頻繁に見られる。

- (4) **힘들어도 [냉큼 일으키는] 물** すぐに体を起こす  
しんどくても すぐに 起こす 体

(4)は解説型のテロップ(左)と、同じ場面で同時に提示された日本語の翻訳字幕(右)である。韓国語テロップの下には、筆者による逐語訳をつけている。解説型は、番組の演出者が画面の中で広げられている状況に対する一定の解釈を

<sup>3</sup> 2021～2022年に韓国で放送されたバラエティ番組で、日本のケーブルテレビで、日本語の翻訳字幕つきで放送されたもの。

提供するという性格のものだが、(4)の場面では出演者による音声発話が行われず、画面の中で起きている事柄について語る部分が動詞述語ではなく連体形になっているのである。

そしてこれは、3節で紹介した日本語の例同様、コンピュータ「다/이다 (だ)」を最後に加えると不自然になることから、名詞述語文の一部としてみなすことができない。また逐語訳に見られるように、連体修飾構造にすると文法的でありながらも、談話の流れからはやや不自然なものになる。実際、上記の例のテロップが用いられた番組は日本でも放送されているが、その際の日本語字幕は「すぐに体を起こす」という動詞述語文になっている。多くの場合、日本語の翻訳字幕は連体名詞句でない構造になるか、そもそも対応する字幕が提供されないか、どちらかになる。つまり日本語の方が逆に連体修飾構造を避けるというわけで、2節で紹介した日韓の違いとは反対の傾向を示すものとなっているのである。

以下はオリンピックの金メダリストが大会までの苦勞を語るトークの一部分だが、韓国語テロップのほとんどは連体名詞句の構造をしていて、実際の音声発話を再現したものではない。この場面で提供される日本語字幕は、音声発話を訳している。(6)に連体名詞句部分だけを取り出して逐語訳をつけている。

- |     |                                |               |
|-----|--------------------------------|---------------|
| (5) | [한 가지 목표만을 바라보고 달려온] <u>5년</u> | 5年間準備してきたけど   |
|     |                                | 勝つ保証はないんだ     |
|     | [50분 안에 모든 게 결정된다는] <u>불안함</u> | 負けるかもしれない     |
|     |                                | その不安が大きかったけど  |
|     | 그러다 승리를 해내잖아?                  | 勝った瞬間——       |
|     | [한 방에 잊히는] <u>5년 동안의 고생</u>    | 5年間のつらさが消えた   |
|     |                                | その気持ちは言葉にできない |
| (6) | a. 한 가지 목표만을 바라보고 달려온 5년       |               |
|     | 一つの 目標だけを 見つめて 突っ走った 5年        |               |
|     | b. 50분 안에 모든 게 결정된다는 불안함       |               |
|     | 50分で すべてが 決まるという 不安            |               |
|     | c. 한 방에 잊히는 5년 동안의 고생          |               |
|     | 一瞬で 消える 5年間の 苦勞                |               |

ここで連体名詞句の箇所が果たしている役割は、複数の発話をまとめて要約し、分かりやすく提示するというものである。この場面で行われた実際の音声発話は複数の文で構成されたもっと冗長なもので、各テロップは音声発話に一对一で対応していないが、重要なキーワードを中心に要約している。また音声発話に一对一で対応したものであっても、テロップ化する際に連体名詞句に組み替える例もある。

- (7) [기꺼이 포기한] 사람됨 人であることを諦めた  
喜んで諦めた人間らしさ

(7)と一緒に流れる音声発話は「사람이길 포기했어 이미 (人であることを諦めたよ もう)」という動詞述語文だが、内容的にはほぼ1対1で対応しているながらも構造はわざわざ連体修飾に組み替えていることが分かる。実のところ、音声発話ではこのような構造がさほど見られないという点からすると不思議な使い方である。

- (8) [한(?)이 서린] 선배의 조언  
恨みが こもった 先輩の助言

これは、女性アイドルが後輩の子に対して「アイドルはこういう点が大変」という、アドバイスめいたことを言って聞かせる場面で、一連の発話が「조언 (助言)」の性格をもつと規定するメタ解釈的のものである。似たような性格のものとして、発話状況に対する補足説明を行ったりする例もある。

このように音声発話を題材とするだけでなく、音声発話が行われない場面でも解説的な性格が強いものが見られる。資料画面など、出演者の音声発話がない時に必要に応じて追加されるなど、音声代わりのナレーションとして提供される。

- (9) [좀처럼 쉽지 않은] 기상      なかなか起きられない  
           なかなか 難しい      起床
- (10) [거실에 누워있는] 누군가?  
       リビングに 横たわっている      誰か

(9)は翻訳字幕が動詞述語文の形で提供されているが、(10)は提供されていない。(9)は、一人暮らしの芸能人の日常をありのままに紹介するという趣旨の番組からの例である。画面にはベッドの上でうなっている出演者の姿が映るが、その様子が二日酔いでなかなか起き上がれずにぐったりしてしまう、という状況であることをテロップを使って解説するというものである。また(10)は続く画面でのテロップだが、先ほどの出演者がやっと起き上がってリビングに出てくる際、リビングの一角をズームしてみせるという演出とともに流れる。この画面では「リビングに横たわっている誰か」に注目してほしい、という演出側の意図を代弁しているといえるものである。このようなテロップは、画面上に展開される事柄の中で演出意図が明確に分かるような箇所を「指定」する機能を果たしている。

## 5. 結論と今後の課題

以上、日本語と韓国語に共通する連体修飾の名詞句の単独用法の例とその機能などをテレビニュースの音声発話とバラエティ番組のテロップという、異なる放送言語テキストを通して観察した。

日本語の場合、連体名詞句は、音声情報として一方向的に提供される発話の中で、該当形式が主題提示の役割をする他、主要部名詞(句)として立てられたキーワードに関連する補足情報、前後のまとめや解説など、視聴者の理解を手助けしながら核心のキーワードとして主題を喚起させるというやり方である。主要部の名詞に「状況」「傾向」「機会」など、先行する連体節といわゆる「外の関係」をもつ名詞は、この手の用例の被修飾名詞の位置には来ないことから、この用法が裏付けられる。これらの名詞は、それ自体より連体修飾節に重要度が高い情報が入るからである。

これに関連して、新聞社節における名詞句構造の使われ方を考察した石井(2016)の分析は示唆する点が多い。石井(2016)は「方針」という抽象名詞を主要部とする各種名詞句が、述べられる事柄における様々な関連情報の中身を分担して表した上で全体を通して連結されることによって、テキストの情報提示の構造をなしているとする。本発表で観察した連体名詞句での主要部は抽象名詞ではないものの、例えば主題として周知された名詞が繰り返される(3)では、テキストにおける役割は意味内容の希薄な抽象名詞とさほど変わらないだろう。即ち「黄砂」というキーワードを配置して様々な関連情報を提供することで、全体的な情報提示構造を完成させているという点でつながるものである。

韓国語のバラエティ番組では、全体的に制作者側の俯瞰的視点から提示される解説型のテロップで、連体名詞句という一定形式を堅持することによって視聴者の集中を誘導する装置として用いられている。つまり連体名詞句の構造を用いること自体が「解説用」という目印となり、ジャンルを特徴づける機能を果たしているものと考えられる。

本発表の観察から、日韓両言語が共有する統語的構造がそれぞれ談話レベルでは異なる機能を果たすことが確認できた。各言語における「連体修飾」という道具がそれぞれテキスト内の「結束性(cohesion)」を高める装置として当該ジャンルを特徴づけているものと考えられる。さらに、連体名詞句を含めた様々な形の名詞的表現に関する分析をさらに深めることによって従来から日本語と韓国語の間で指摘されてきた「名詞志向」の程度の違いにも広げることができるだろう。

### 参考文献

- 安達太郎(2017). スタイルから見た新聞記事の名詞型述語文 現代日本語研究, 9, 8-22.
- 石井正彦(2016). 名詞的表現による文内情報提示の構造: 新聞社節の抽象名詞「方針」を例に 待兼山論叢日本学篇, 50, 21-48.
- 生越直樹(2002). 日本語・朝鮮語における連体修飾表現の使われ方—「きれいな花!」タイプの文を中心に— シリーズ言語科学4 対照言語学 東京大学出版会 pp. 75-98.
- 呉守鎮・堀江薫・金廷珉(2015). 韓国語の文字テロップにおける「連体終止形」—実例に基づく機能分類を目指して 동북아문화연구, 44, 311-335.
- 塩田英子(2005). バラエティ番組における文字テロップの役割—発話理解のしくみを探る— 三宅和子・岡本能里子・佐藤彰編 メディアとことば2 [特集]組み込まれるオーディエンス ひつじ書房 pp. 32-58.
- 寺村秀夫(1993). 寺村秀夫論文集I—日本語文法編 くろしお出版
- 尹盛熙(2021). ことばの「省略」とは何か 大修館書店